

景観や町並みに関する国民の関心は近年増加傾向にあり、「関心がある」(小計)の回答は全体の7割近くになっている。また、日本の景観で美しいと評価できる点は、全国的に「歴史的な町並み」や「眺望」「街路樹の美しい並木道」などであり、その整備と保全が期待されている。

景観・町並み

図2 日本の町の景観で美しいと思うところ

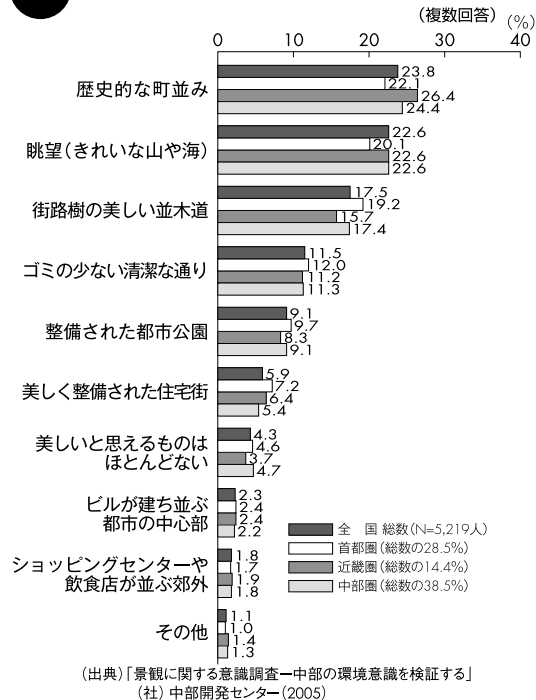


図1 住宅地や市街地における町並みや景観に対する関心

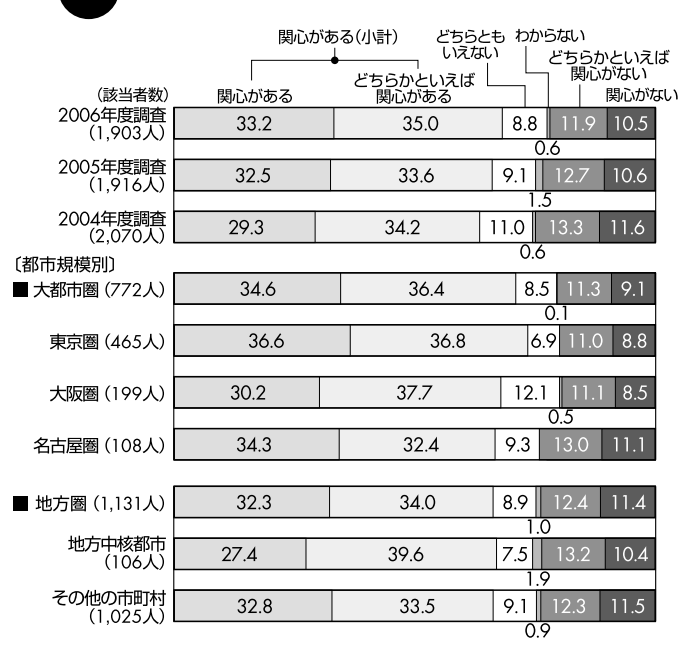
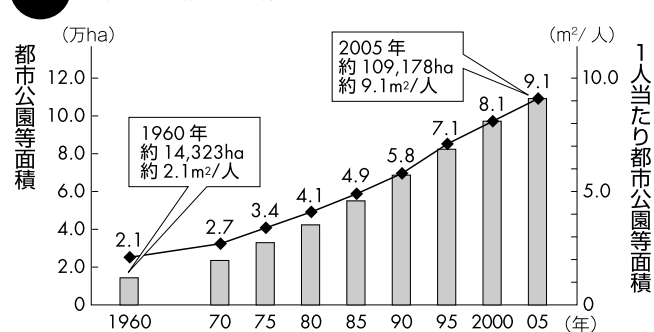


図3 都市公園面積の推移



都市公園・建物緑化

日本では近年都市公園の整備が進められ、総面積および1人当たりの都市公園面積も増加している。しかし欧米の主要都市に比べるとその水準は依然として低い。また、身近な環境としての建築物に緑を増やす、屋上緑化、壁面緑化の動きが全国的に進展を見せている。

図4 世界と日本の主要都市の1人当たりの公園面積

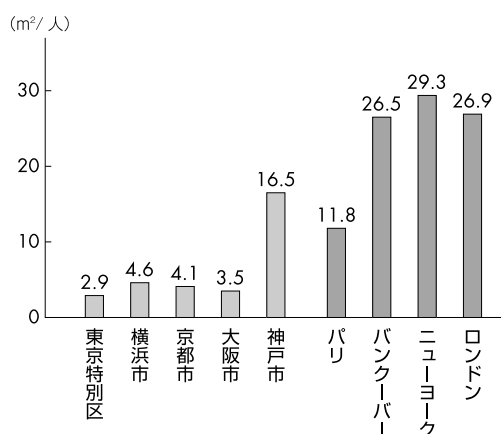
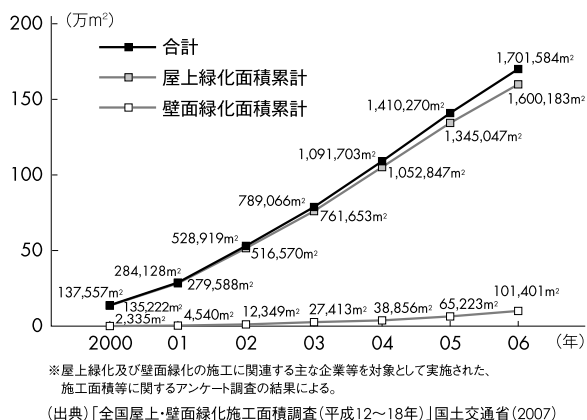


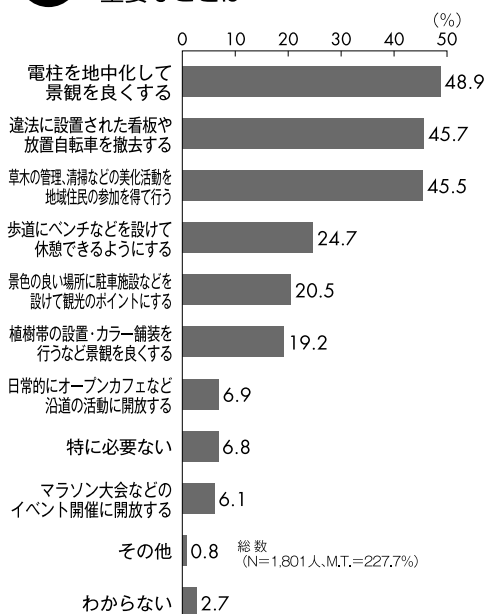
図5 全国屋上・壁面緑化施工面積 (2000~2006年累計)



水辺の役割に対する国民の意識としては、「貴重な自然環境」「美しい景観」などが挙げられ、里山林も「身近な自然」「子どもたちが自然を体験する場」として、貴重なものと捉えられている。道路空間に対しては景観改善の要望が強く、公共空間としての多様な活用も期待されている。

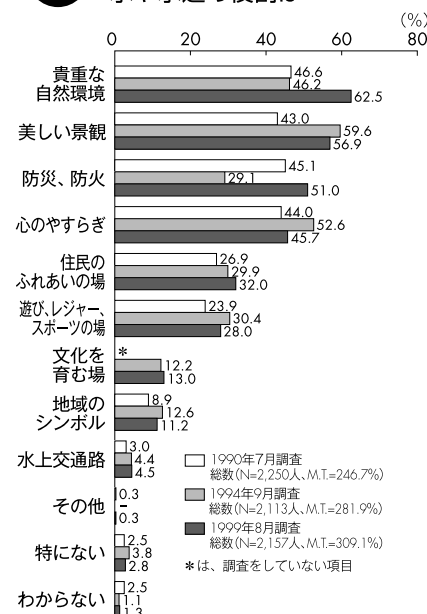
街路・水辺・里山林

図8 道路空間の快適な利用において重要なことは (複数回答) (%)



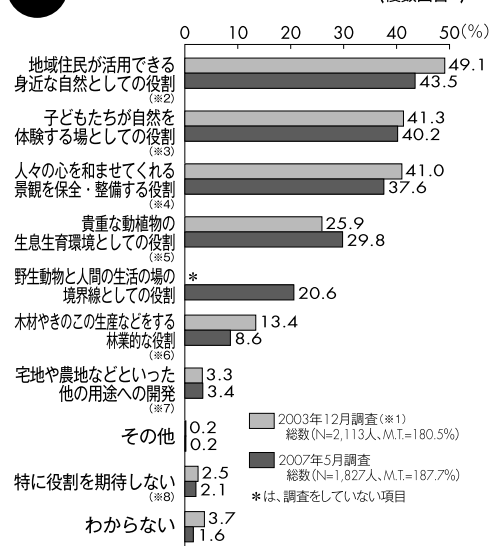
(出典)「道路に関する世論調査」内閣府 (2006)

図7 まちづくりでの水や水辺の役割は (複数回答) (%)



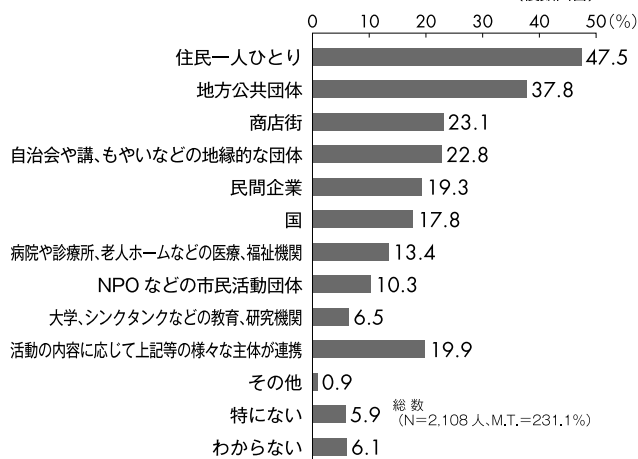
(出典)「水環境に関する世論調査」内閣府 (1999)

図6 里山林等の利用のあり方は (2つまでの複数回答) (%)



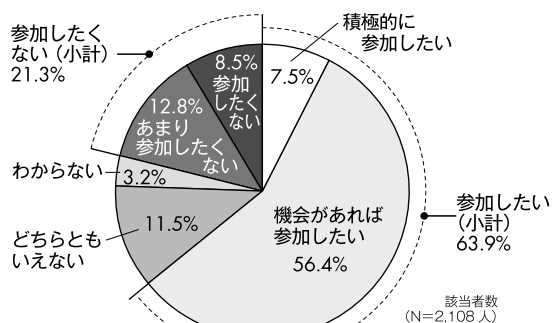
(※1) 2003年12月調査では、「地域住民にとって、貴重な自然となっている、居住地近くに広がる森林(里山林や都市近郊林)について、今後、どのような観点から利用や取り扱いをすべきだと思いますか」と問われている。
(※2) 「身近な自然として地域住民が活用できる取り扱い」/(※3) 「子どもたちに自然を体験させる場としての利用」/(※4) 「人々の心を和ませてくれる景観を保全・整備する取り扱い」/(※5) 「貴重な動植物を保全する取り扱い」/(※6) 「木材やきのこの生産などをする林業的な利用」/(※7) 「宅地や農地などといった用途を目的とした利用」/(※8) 「特に、利用・保全しない」
(出典)「森林と生活に関する世論調査」内閣府 (2007)

図10 地域再生に中心となって活動すべき人々や団体は (複数回答) (%)



(出典)「地域再生に関する特別世論調査」内閣府 (2005)

図11 地域が元気になるための活動に参加したいと思うか

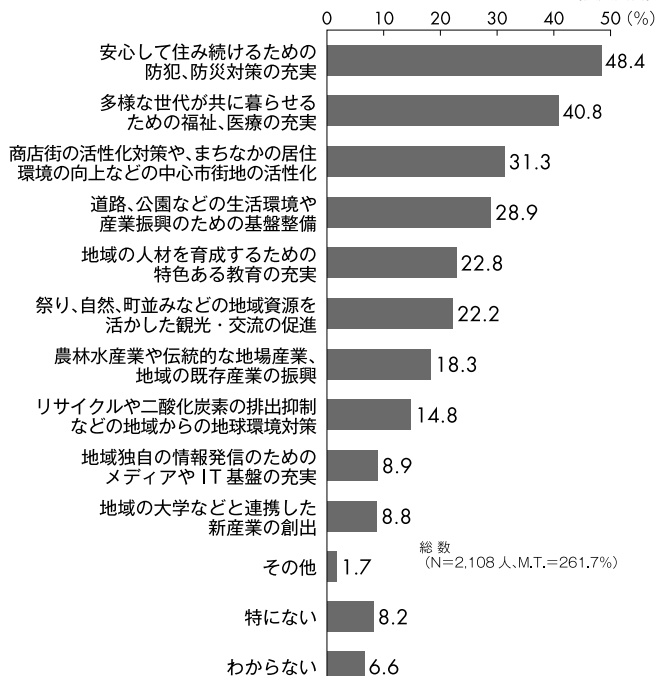


(出典)「地域再生に関する特別世論調査」内閣府 (2005)

地域再生

地域活性化に国民が期待する施策としては、「防犯、防災」「福祉、医療の充実」に次いで、「中心市街地の活性化」「道路、公園などの整備」が挙げられている。また、中心となって活動すべきは「住民一人ひとり」が最多で、活動に「参加したい」(小計)の回答は6割以上ある。

図9 住んでいる地域が元気になるために期待する施策は (複数回答) (%)



(出典)「地域再生に関する特別世論調査」内閣府 (2005)